

事務事業分析シート（平成26年度）

No1

主要事業	事務事業コード	03-01-12	戦略プラン	協働	業務	財務	人事
事務事業名	区民会館費	部課名	区民生活部区民課	課長名	正木	担当者名	森田
				内線	2514		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（26年度）	01-01-01	区民会館管理運営費					
	01-02-01	営繕費（計画工事）					
	01-02-02	区民会館大規模改修工事費					
事務事業の種類	新規事業（26年度 25年度）			建設事業		それ以外の継続事業	
開始年度	昭和	平成	49年度	根拠	荒川区区民会館条例及び条例施行規則		
終期設定	有	無	年度	法令等			
実施基準	法令基準内		都基準内	区独自基準	計画区分	計画	非計画
行政評価事業体系	分野	文化創造都市					
	政策	09	伝統文化の継承と都市間交流の推進				
	施策	09-01	芸術・文化の振興				
目的	荒川区民会館を広く区民の利用に供するとともに、利用者サービスの向上を図るため、施設状況を良好に保持し、適切な管理運営を行う。						
対象者等	区民及び一般市民						
内容	<p>名称 荒川区民会館（愛称 サンパール荒川〔昭和56年度区民公募〕）</p> <p>所在地 荒川区荒川1-1-1 電話 3806-6531</p> <p>開館時間 午前9時から午後10時まで（受付は午後8時まで）</p> <p>休館日 年末年始（12月29日から1月3日）</p> <p>構造・規模 SRC造 地下1階、地上6階 延床面積10,044.09㎡</p> <p>施設の概要 1F：大ホール（1,120席、1161.88㎡） 2F：レストラン、ACC分室</p> <p>3F：小ホール（移動席300席、281.09㎡）</p> <p>4F：第1集会室（洋室32名）、第2集会室（洋室50名）、第3集会室（洋室50名）、第4集会室（和室40名）</p> <p>5F：第5集会室（高砂 洋室50名）、第6集会室（羽衣 洋室50名）、第7集会室（末広 洋室100名）</p> <p>6F：荒川コミュニティカレッジ</p>						
経過	<p>昭和50年3月28日 荒川区民会館オープン</p> <p>平成2年4月1日 財団法人荒川区地域振興公社に管理運営を委託</p> <p>平成4年4月1日 改修工事のため休館（同年10月31日まで）</p> <p>平成18年4月1日 指定管理者制度導入によりMKT共同事業体が指定管理業務を受託。毎週月曜日の開館とともに、年末年始の休館日を8日間から6日間に短縮。</p> <p>平成21年4月1日 指定管理者更新により、引続きMKT共同事業体が指定管理業務を受託。</p> <p>平成22年8月2日 結婚式場と控室を廃止。当該部分を社会教育課が荒川コミュニティカレッジとして使用開始。</p> <p>平成24年4月1日 指定管理者の公募により、引続きMKT共同事業体が指定管理業務を受託。</p> <p>平成24年6月1日 荒川区芸術文化振興財団の分室（ARAKAWA1-1-1ギャラリー）が開設。</p> <p>平成27年4月1日（予定）1年間休館し、大規模改修を実施。</p>						
必要性	区民の文化の向上とコミュニティ活動促進を図る上で拠点として設けられた施設であり、必要性は高い。						
実施方法	<p>（3委託） （直営の場合 ○常勤 ○非常勤 ○臨時職員）</p> <p>指定管理者 MKT共同事業体（三菱電機ビルテクノサービス㈱・㈱共立・㈱スペースネットワーク）</p> <p>26年度当初予算 指定管理者委託料 165,591,000円（工事、備品購入等は除く）</p>						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
予算額	215,323	296,910	212,035	206,672	218,946	246,370	1,231,093	
決算額（26年度は見込み）	208,722	249,455	208,561	203,475	218,607	245,604	1,231,093	
人件費等	6,353	6,108	8,720	7,453	8,509	8,733		
減価償却費			2,905	2,737	3,324	3,549		
【事務分担量】（％）	75	75	100	88	103	105		
合計（+ +）	215,075	255,563	220,186	213,665	230,440	257,886	1,231,093	
特定財源	41,657	17,338	29,001	37,425	9,481			
国								
都								
その他							1,006,000	
一般財源	173,418	238,225	191,185	176,240	220,959	257,886	225,093	
実績の推移	事項名	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	大ホール貸出稼働率（％）	47.6	54.9	50.2	65.3	57.6	55.1	
	小ホール貸出稼働率（％）	58.6	62.5	69.9	62.6	63.4	61.9	
	集会室貸出稼働率（％）	41.0	40.9	41.4	43.6	42.7	43.2	

予算・決算の内訳								
平成24年度（決算）			平成25年度（決算）			平成26年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
委託料	指定管理者委託料等	204,234	委託料	指定管理者委託料等	184,858	工事請負費	大規模改修工事	1,023,517
工事請負費	階段クロス交換等	3,056	委託料	大規模改修工事設計委託	59,850	委託料	指定管理者委託料等/工事監理委託	205,535
需用費	大ホール吊物ワイヤー修繕	9,214	備品購入費	エレベーターチェア外	802	備品購入費	A E D 外	818
備品購入費	マトリックスミキサー外	2,103	報償費	実績評価委員会報酬	60	報償費	指定管理者公募委員報酬	593
			需用費	消耗品等	34	需用費	消耗品等	479
						旅費	指定管理者公募事業所調査	135
						使用料等	指定管理者公募会場使用料	16

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		23年度	24年度	25年度	26年度 見込み	目標値 (27年度)	
標	文化、芸能のイベント件数（件）	253	252	243	245	（休館）	音楽、演劇、舞踊、映画等での催事数
	文化、芸能の利用人数（人）	158,836	103,869	117,165	118,130	（休館）	上記での利用人数

（問題点・課題分析）	1 施設利用の利用率向上対策
	2 中長期計画に基づく大規模改修の実施(バリアフリー化を含む)
	3 平成27年度の大改修から15～20年後に必要な新たな区民会館の調査・研究の必要性
他区の実況	（実施 22 区 未実施 0 区 不明 0 区）

問題点・課題の改善策	
平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
大規模改修工事の設計に必要な項目を盛り込む。（休館は平成27年度）	大規模改修工事を実施する。（平成27年度）
工事休館中における次年度利用予約の受付場所を確保する。	休館後の利用再開を円滑に行う。
平成27年度の大改修から15～20年後に必要な新たな区民会館の調査・研究を行っておく必要がある。	平成26年度に実施する新たな区民会館の建設イメージや具体的場所を想定しての建設可能性調査をもとに、庁内で検討を進める。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
26年度	27年度	
推進	推進	区民の文化の向上とコミュニティ活動の促進を図るための拠点として設けられた施設であり、優先度は高い。

議事（要旨）	H25 予特「トイレの老朽化について」
--------	---------------------

事務事業分析シート（平成26年度）

No1

主要事業	事務事業コード	03-01-13	戦略プラン	協働	業務	財務	人事
事務事業名	日暮里サニーホール費		部課名	区民生活部区民課	課長名	正木	
			担当者名	中澤	内線	2513	
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（26年度）	01-01-01	日暮里サニーホール管理運営費					
	01-01-02	日暮里サニーホール共用部分等修繕					
	01-98-98	日暮里サニーホール営繕費（計画工事等）					
事務事業の種類	新規事業（26年度 25年度）			建設事業		それ以外の継続事業	
開始年度	昭和	平成	元年度	根拠	日暮里サニーホール条例及び条例施行規則		
終期設定	有	無	年度	法令等			
実施基準	法令基準内		都基準内	区独自基準	計画区分	計画	非計画
行政評価事業体系	分野	文化創造都市					
	政策	09	伝統文化の継承と都市間交流の推進				
	施策	09-01	芸術・文化の振興				
目的	日暮里サニーホールを広く区民の利用に供するとともに、利用者サービスの向上を図るため、施設状況を良好に保持し、適切な管理運営を行う。						
対象者等	区民及び一般市民						
内容	<p>所在地：荒川区東日暮里5-50-5ホテルラングウッド4・5階 電話(3807)3211 開館：平成元年2月9日 開館時間：午前9時から午後10時まで（受付時間は午後8時まで） 休館日：年末年始（12月29日から1月3日まで） 規模等：延床面積 2,311.28㎡</p> <p>施設の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> 多目的ホール 収容人員500名（フラット時）/面積404㎡ コンサートサロン 収容人員100名（フラット時）/面積113㎡ 会議室 第1会議室 収容人員24名（面積57㎡） 第2会議室 収容人員12名（面積25㎡） 第3会議室 収容人員12名（面積28㎡） 第2,3会議室は通し使用可能 						
経過	<ul style="list-style-type: none"> ・平成元年 2月 9日 日暮里サニーホールオープン（財団法人荒川区地域振興公社に管理運営を委託） ・平成15年 4月 1日 荒川区民会館・日暮里サニーホール・ムーブ町屋の3館の舞台機構管理、受付及び機械設備保守等の各業務について、一元化して第三者への再委託を行い、大幅な経費の削減を図った。 ・平成16年11月30日（財）中央労働福祉センター解散。（株）三菱UFJ信託銀行が区と覚書を取交し、財団の業務を引継ぐ。 ・平成18年 4月 1日 指定管理者制度導入により（株）シーピーシ・メソッドが指定管理業務を受託。年末年始の休館日を8日間から6日間に短縮。 ・平成21年 4月 1日 指定管理者更新により、引続き（株）シーピーシ・メソッドが指定管理業務を受託。 ・平成24年 4月 1日 指定管理者の公募により、日暮里サニーホールさくらグループが指定管理業務を受託。 						
必要性	区民の文化の向上とコミュニティ活動促進を図る上で拠点として設けられた施設であり、稼働率も高く、必要性は高い。						
実施方法	（3委託）（直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員） 指定管理者名 日暮里サニーホールさくらグループ（（株）コングレ、（株）スペースネットワーク、（株）共立）						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
予算額		95,998	110,748	66,297	71,002	79,980	103,452	65,910
決算額（26年度は見込み）		92,148	97,066	64,303	57,370	73,851	97,876	65,910
人件費等		3,812	4,072	4,796	4,658	4,874	5,822	
減価償却費				1,598	1,711	1,904	2,366	
【事務分担量】（%）		45	50	55	55	59	70	
合計（+ +）		95,960	101,138	70,697	63,739	80,629	106,064	65,910
特定財源の推移	国							
	都							
	その他		122	78	8,710	26,968	9,317	
一般財源		95,838	101,060	61,987	36,771	71,312	106,064	65,910
実績の推移	事項名	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	多目的ホール貸出稼働率	60.2	68.5	68.8	66.5	64.5	67.1	
	コンサートサロン貸出稼働率	88.4	84.8	83.7	82.2	86.7	89.0	
	会議室貸出稼働率	78.3	77.3	76.3	78.9	74.3	75.7	

予算・決算の内訳								
平成24年度（決算）			平成25年度（決算）			平成26年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
委託料	指定管理料他	59,861	委託料	指定管理者委託料等	46,973	委託料	指定管理者委託料等	51,903
需用費	-	-	負担金補助等	ラングウッド'共用部分工事費外	36,506	負担金補助等	ラングウッド'共用部分工事費外	11,669
工事請負費	-	-	工事請負費	ロビー床改修、天井塗装	13,722	備品購入費	パワーアンプ外	2,019
			備品購入費	一文字幕外	620	需用費	消耗品等	199
備品購入費	音響照明機器他	2,186	需用費	消耗品等	44	使用料等	日暮里駅前駐輪場サービス券	120
	共有部分等計画修繕	7,219	使用料等	日暮里駅前駐輪場サービス券	11			
負担金補助	駐車場負担金等	4,585						

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		23年度	24年度	25年度	26年度 見込み	目標値 (27年度)	
標	文化、芸能のイベント件数（件）	558	598	591	582	600	音楽、演劇、舞踊、映画等での催事数
	文化、芸能の利用人数（人）	62,714	62,782	62,523	62,673	64,200	上記での利用人数

（問題点・課題分析）	<p>開館から24年を経て、壁・床面・天井等の破損や汚れ等、施設全体の老朽化が目立ちはじめている。ホテルに併設された施設であること等特殊な事情を勘案した計画的な修繕が必要である。</p> <p>文化・娯楽関連イベント数は増加傾向であるが、利用者数は減少傾向であるため、更なる集客が必要である。</p> <p>スタッフの対応、利用方法について問題等は発生していないが、全ての利用者から満足を得られるためには、更なるサービスの向上が必要である。</p>
	<p>（実施 0 区 未実施 22 区 不明 0 区）</p>
他区の実況	

問題点・課題の改善策	
平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
<p>中長期改修計画において第1期目に位置している舞台照明設備工事について、指定管理者及びホテルとの施工条件等の調整を綿密に行う。</p>	<p>中長期改修計画において第2期目に位置している弱電、給排水、空調について指定管理者及びホテルとの調整を綿密に行う。空調について、利用者が冷暖房の切り替えが行えるよう吟味する。</p>
<p>引き続き、利用者からの意見やクレーム等を月報等で区に報告してもらい、利用者数とサービスの更なる向上を目指す。</p>	<p>引き続き、利用者からの意見やクレーム等を月報等で区に報告してもらい、利用者数とサービスの更なる向上を目指す。</p>
<p>引き続き、指定管理者及びホテルラングウッドとの管理運営上の調整を密にする体制を整え、3者で協力して事業を展開していく。</p>	<p>引き続き、指定管理者及びホテルラングウッドとの管理運営上の調整を密にする体制を整え、3者で協力して事業を展開していく。</p>

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
26年度	27年度	
推進	推進	<p>区民の文化の向上とコミュニティ活動の促進を図るための拠点として設けられた施設であり、優先度は高い。</p>

議（要旨）	
況（要旨）	

事務事業分析シート（平成26年度）

No1

主要事業	事務事業コード	03-01-14	戦略プラン	協働	業務	財務	人事
事務事業名	ムーブ町屋費	部課名	区民生活部区民課	課長名	正木	担当者名	中澤
				内線	2513		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（26年度）	01-01-01	ムーブ町屋管理運営費					
	01-02-01	ムーブ町屋営繕費（計画工事等）					
事務事業の種類	新規事業（26年度 25年度）			建設事業	それ以外の継続事業		
開始年度	昭和	平成	8年度	根拠法令等	荒川区ムーブ町屋条例及び条例施行規則		
終期設定	有	無	年度				
実施基準	法令基準内		都基準内	区独自基準	計画区分	計画	非計画
行政評価事業体系	分野	文化創造都市					
	政策	09	伝統文化の継承と都市間交流の推進				
	施策	09-01	芸術・文化の振興				
目的	ムーブ町屋を広く区民の利用に供するとともに、利用者に対するサービス向上を図るため、施設状況を良好に保持し、適切な管理運営を行う。						
対象者等	区民及び一般市民						
内容	<p>所在地：荒川区荒川7-50-9 センターまちや3・4階 電話：(3819)7761 開館時間：午前9時から午後10時(受付時間は午後8時) 休館日：年末年始(12月29日から1月3日) 開館：平成8年6月1日 規模等：延床面積2797.17㎡</p> <p>施設の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> 多目的ホール 収容人員296席 / 面積228㎡(舞台、電動式椅子を収納した場合) ハジメホール 収容人員70席 / 面積 59㎡/スクリーン大きさ3.4m×1.9m ミニギャラリー 収容人員28名(椅子のみ使用時は40名) / 面積70㎡ スタジオ 収容人員10名程度 / 面積51㎡ 企画展示コーナー オープンスペース / 面積145㎡(4階全施設を使用する場合185㎡) その他 住民票・印鑑登録証明書自動交付機(平成8年6月開設) 						
経過	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 8年 6月 1日 ムーブ町屋オープン(財団法人荒川区地域振興公社に管理運営を委託) ・平成15年 4月 1日 荒川区民会館・日暮里サニーホール・ムーブ町屋の舞台機構管理、受付及び機械設備保守等を一元化して第三者への再委託を行い、大幅な経費削減を図った。 ・平成17年10月 3日 JOBコーナー町屋開設。 ・平成18年 4月 1日 指定管理者制度導入により㈱ｼｰﾋﾞｰｼｰﾌﾞﾙﾄﾞが指定管理業務を受託 年末年始の休館日を8日間から6日間に短縮。 ・平成21年 4月 1日 指定管理者更新により、引続き㈱ｼｰﾋﾞｰｼｰﾌﾞﾙﾄﾞが指定管理業務を受託。 ・平成24年 4月 1日 指定管理者の公募により、ムーブ町屋さくらグループが指定管理業務を受託。 就労支援課の執務スペースを設置。 ・平成25年 4月 1日 くつろぎ広場の一部をJOBコーナー町屋の若者向け相談スペースとして使用開始。 						
必要性	区民の文化の向上とコミュニティ活動促進を図る上で拠点として設けられた施設であり、区内の中心部にある施設として、数多くの団体に利用されており、必要性は高い。						
実施方法	(3委託) (直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員) 指定管理者名 ムーブ町屋さくらグループ((株)コングレ、(株)スペースネットワーク、(株)共立)						

(単位：千円)

予算・決算額等の推移	(単位：千円)							
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
予算額	94,115	96,321	83,318	77,449	102,326	72,251	165,932	
決算額(26年度は見込み)	92,676	93,939	80,523	72,301	99,984	71,835	165,932	
人件費等	3,812	3,665	4,360	4,235	4,709	3,327		
減価償却費			1,453	1,555	1,839	1,352		
【事務分担量】(%)	45	45	50	50	57	40		
合計(+ +)	96,488	97,604	86,336	78,091	106,532	76,514	165,932	
特定財源								
国								
都								
その他	301	62	4,062	10,219	58			
一般財源	96,187	97,542	82,274	67,872	106,474	76,514	165,932	
実績の推移	事項名							
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
多目的ホール貸出稼働率	65.1	68.8	63.6	67.4	67.9	63.2		
会議室A・B貸出稼働率	45.4	48.0	51.4	49.2	55.5	56.5		
スタジオ貸出稼働率	65.4	64.4	66.7	67.1	71.4	68.5		
ギャラリー貸出稼働率	51.8	50.4	47.3	51.3	43.0	52.3		

予算・決算の内訳								
平成24年度（決算）			平成25年度（決算）			平成26年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
委託料	指定管理料等	47,003	負担金補助等	管理規約に基づく分担金外	35,493	委託料	指定管理者委託料等	37,717
需用費	消耗品費	409	委託料	指定管理者委託料等	34,505	委託料	工事休館補填	3,815
備品購入費	音響照明機器他	1,294	備品購入費	プロジェクター外	1,793	工事請負費	舞台機構改修工事	85,317
負担金補助	管理規約に基づく分担金他	35,493	需用費	AEDパット	44	負担金補助等	管理規約に基づく分担金外	38,471
工事請負費	内部壁改修工事／舞台操作盤交換	15,785				備品購入費	AED本体外	612

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		23年度	24年度	25年度	26年度 見込み	目標値 (27年度)	
標	文化、芸能のイベント件数（件）	604	598	647	616	650	音楽、演劇、舞踊、映画等での催事数
	文化、芸能の利用人数（人）	45,196	42,845	37,192	41,744	44,005	上記での利用人数

（問題点・課題分析）	<ul style="list-style-type: none"> 年間利用者数は約10万人であるが、稼働率（ホール65%～70%、会議室A・B45%～60%）は高くないため、施設の使いやすさ等のサービスの向上を図り、利用者数を増加させる必要がある。 空調設備の調子が悪いため、利用者から苦情が出ている。整備業者に点検を依頼し、緊急対応を取ってもらったが、空調設備の維持管理の体制を改善させる必要がある。 荒川区ムーブ町屋の施設は、会議室の場所としての利用だけでなく、附帯の機器を含めた利用が多いため、それらの機器の保守管理が不可欠である。
	（実施 0 区 未実施 22 区 不明 0 区）
他区の実況	

問題点・課題の改善策		
	平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
	引き続き、利用者からの意見やクレーム等を月報等で区に報告してもらい、利用者数とサービスの更なる向上を目指す。	引き続き、利用者からの意見やクレーム等を月報等で区に報告してもらい、利用者数とサービスの更なる向上を目指す。
	空調設備を管理しているセンターまちや管理組合に、不具合があったことを報告し、適正な空調設備の維持管理を依頼する。	中長期改修計画において第2期目に位置している改修について、指定管理者及びセンターまちやとの調整を綿密に行う。
	指定管理者に日常点検及び保守点検の徹底を指示する同時に、指定管理者の意見を参考にして施設に必要な附帯機器の精査を行う。	指定管理者に日常点検及び保守点検の徹底を指示する同時に、指定管理者の意見を参考にして施設に必要な附帯機器の精査を行う。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
26年度	27年度	
推進	推進	区民の文化の向上とコミュニティ活動の促進を図るための拠点として設けられた施設であり、優先度は高い。

議（要旨）	況（質問）
-------	-------

事務事業分析シート（平成26年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-01-01	戦略プラン	協働	業務	財務	人事
事務事業名	文化振興事務費		部課名	地域文化スポーツ部文化交流推進課	課長名	佐藤	
			担当者名	榊	内線	2522	
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（26年度）	01-01-02	事務費					
事務事業の種類	新規事業（26年度 25年度）		建設事業		それ以外の継続事業		
開始年度	昭和 平成	63 年度	根拠法令等	西日暮里ギャラリー運営要綱 荒川区芸術文化事業共催要綱			
終期設定	有 無	年度					
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画	非計画	
行政評価事業体系	分野	文化創造都市					
	政策	09	伝統文化の継承と都市間交流の推進				
	施策	09-01	芸術・文化の振興				
目的	区民が芸術文化に触れる機会の拡充を図るとともに、地域の文化資源の発掘と積極的な情報発信を進める。						
対象者等	一般						
内容	<p>太平洋展荒川区長賞：一般社団法人太平洋美術会が主催する太平洋展で優秀な作品2点に区長賞を授与。</p> <p>西日暮里ギャラリー：西日暮里駅高架下の6ヶ所の展示スペースを展示希望者に貸出す。最長2週間。ディスカバーあらかわ：一般公募した区内の風景・風物をテーマとした作品を展示。優秀な作品に荒川区長賞(1点)、荒川区長奨励賞(3点)、社団法人太平洋美術会会長賞(2点)、荒川区美術連盟理事長賞(2点)を授与。受賞作品は、展覧会終了後区役所1階ロビーの展示ケースにて、2週間展示。1階ロビー展示：本庁舎1階玄関ロビーの展示ケース及びパネルにて交流都市の紹介展示を行う。芸術文化振興プラン：プランに掲げた事項について、着実に推進する。JOBANアートライン協議会：常磐線沿線地域の活性化を図っていくことを目的とした協議会で、年に一度アートワークショップを開催。</p>						
経過	<p>太平洋展荒川区長賞：平成9年度から、太平洋展にて荒川区長賞を授与している。</p> <p>西日暮里ギャラリー：平成9年度に道路課が高架下の修景事業として設置。維持管理は道路公園課、運営は文化交流推進課。</p> <p>ディスカバーあらかわ：平成7年度より太平洋美術会の協力で実施。17年度から荒川区美術連盟の協力も得て一般公募形式とし、広く作品の募集を行っている。平成19年度からは、絵画以外に版画・染織・彫刻の出品も可とした。</p> <p>1階ロビー展示ケース：平成19年度に交流都市紹介スペースとして設置し、交流都市だけでなく区内で開催されている文化事業等の紹介にも活用している。</p> <p>芸術文化振興プラン：「幸福実感都市 あらかわ」を芸術文化の側面から形成していくため、平成21年6月に策定、平成26年6月に改定。</p> <p>JOBANアートライン協議会：H18年協議会設立総会開催。</p>						
必要性	芸術文化活動は、人間の内面に対する探求を行うものである。芸術を鑑賞したり、自ら芸術文化活動を行うことは、区民の生活をより豊かにすることを可能にするものである。こうした地域の文化振興への取り組みは、区の重要な役割である。						
実施方法	(1直営) (直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員) 太平洋展の初日に授与。申請を受け内容を審査。一般公募したものを展示し、優秀な作品に賞を授与。プランに掲げた事項の具体化及び推進プログラムの充実を図る。負担金を支出。						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	予算額		4,477	4,565	4,638	4,157	4,846	6,926
決算額（26年度は見込み）		4,297	3,826	4,128	3,804	4,532	6,349	3,859
人件費等		1,779	2,036	2,180	2,964	2,478	6,654	
減価償却費				726	1,089	968	2,704	
【事務分担量】（%）		21	25	25	35	30	80	
合計（+ +）		6,076	5,862	7,034	7,857	7,978	15,707	3,859
特定財源	国	0	0	0	0	0	0	0
	都	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0
一般財源		6,076	5,862	7,034	7,857	7,978	15,707	3,859
実績の推移	事項名	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	太平洋展来場者数	18,037	20,382	18,269	22,824	19,513	21,412	25337
	太平洋展出品作品数	954	992	1003	761	671	941	979
	西日暮里ギャラリー展示件数	8	17	11	20	20	23	25
	ディスカバーあらかわ応募点数	97	121	99	117	125	104	110

予算・決算の内訳								
平成24年度（決算）			平成25年度（決算）			平成26年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
報酬	非常勤職員報酬	2,548	報酬	非常勤職員報酬	2,548	報酬	非常勤職員報酬	2,552
共済費	非常勤社会保険料	371	委託料	芸文プラン見直し	2,485	需用費	区長賞記念品、事務用品、印刷代外	394
旅費	近接地内旅費、特別旅費	104	需用費	区長賞記念品、事務用品、印刷代外	400	共済費	非常勤社会保険料	381
一般需用費	区長賞記念品、事務用品、印刷代外	318	共済費	非常勤社会保険料	376	使用料等	ディスカバー附帯使用料	199
委託料	絵本製作委託料	971	報償費	芸文プラン講師謝礼	235	旅費	近接地内旅費、特別旅費	129
使用料及び賃借料	附帯設備使用料	139	負担金補助等	JOBANアートライン協議会	50	負担金補助等	JOBANアートライン協議会	100
その他	食糧費、役務費、負担金及び交付金	81	その他	旅費、筆耕、付帯施設使用料	255	その他	報償費、役務費	104

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		23年度	24年度	25年度	26年度見込み	目標値(27年度)	
標	西日暮里ギャラリー利用率(%)	92.3	99.5	100	100	100	
	ディスカバーあらかわ区民応募率(%)	47.9	43.5	49.1	55	60	

（問題点・課題分析）	「ディスカバーあらかわ」へ区民応募率が低いため検討が必要である。芸術文化振興プランに掲げた事項について、区民の意見を効果的に反映させ、着実な推進を図るための取組を行い、年度毎に進行管理を徹底する。
	（実施 0 区 未実施 0 区 不明 22 区）
他区の実況	

問題点・課題の改善策	
平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
「ディスカバーあらかわ」について、区民がより応募していただけるような周知を区報・ホームページにて定期的に行う。	区民が応募しやすいような賞の内容について関連団体と協議・検討する。
プランに掲げた事項について、事業化に向けた具体的な検討を行うとともに、区民の意見を効果的に反映するための会議を設置する。	事業の具体化・実施に努めるとともに、区民意見反映のしくみが効果的に機能するよう、必要な見直しを行う。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
26年度	27年度	
推進	推進	地域の文化振興への取り組みは、区の重要な役割である。

（議会要旨）	太平洋美術会との今後の連携について(21年4月観光・文化) 芸術文化振興プランの検証について(26年5月観光・文化)
--------	---

事務事業分析シート（平成26年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-01-05	戦略プラン	協働	業務	財務	人事
事務事業名	緑と彫刻の街づくり事業		部課名	地域文化スポーツ部文化交流推進課	課長名	佐藤	
			担当者名	榊	内線	2522	
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（26年度）	01-04-01	緑と彫刻の街づくり事業費					
事務事業の種類	新規事業（26年度 25年度）		建設事業		それ以外の継続事業		
開始年度	昭和	平成	60年度	根拠			
終期設定	有	無	年度	法令等			
実施基準	法令基準内		都基準内	区独自基準	計画区分	計画	非計画
行政評価事業体系	分野	文化創造都市					
	政策	09	伝統文化の継承と都市間交流の推進				
	施策	09-01	芸術・文化の振興				
目的	緑の多い広場、公園やゆったりとした歩道など、区民の多くが憩い、集う場所に彫刻を設置し、新しい景観、ゆとりと潤いの空間を区民に提供する魅力あるまちづくりを推進することを目的とする。						
対象者等	区民及び区外からの訪問者						
内容	<p>(1) 彫刻作品の設置 生活にゆとりとやすらぎを創りだし、住み続けたい街、魅力ある街づくりの一環として彫刻を設置し、適切に管理するものである。 <設置場所の基本的な考え方> 区民や区外の人が多く利用する場所（本庁舎前、主要駅、多数の区民の集う拠点施設、公園等） 特定区民の利用する場所（学校、校外教育施設等） 設置場所、設置施設に適したシンボル性や親しみを感じられるものを設置してきた経緯がある。</p> <p>(2) 汐入タワーの管理 東京都が設置・所有する都立汐入公園（南千住8丁目）内の汐入タワーの管理および汐入タワーを活用した事業を展開する。</p>						
経過	<p>(1) 彫刻作品の設置 ・「緑と彫刻の街づくり事業」として昭和60年度から公共の広場、公園、道路などに計80体（うち寄贈33体）を設置。（H25年度で計80体） ・平成15年から平成18年は新規の設置は行わず、清掃・メンテナンス及び修繕のみ行ってきた。 ・平成23年度彫刻マップをHP上にアップ。</p> <p>(2) 汐入タワーの管理 当初は、平成25年度に解体を予定していたが、地元町会が制作に協力し、区民に親しまれている施設であることから、設置延長について東京都と調整を行い、設置を継続することとし、平成26年度より東京都と区により管理を行うこととした。</p>						
必要性	彫刻は、街にゆとりとうるおいを創出し、地域文化の向上と区のイメージアップを図るため設置してきた。「豊かさの実感できる社会」の創造が求められるなか、設置した彫刻が区民に親しまれるよう適切に管理していくことが重要である。						
実施方法	<p>（2一部委託）（直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員）</p> <p>(1) 彫刻作品の設置：彫刻作品の清掃・メンテナンスを行い、作品を適切に管理する。 (2) 汐入タワーの管理：平成26年度以降、区は維持管理（要する経費の負担）を行う。</p>						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移								
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
予算額	7,904	7,456	3,763	4,691	1,475	3,628	3,607	
決算額（26年度は見込み）	7,904	5,658	3,667	4,447	1,397	3,342	3,607	
人件費等	2,541	4,072	4,360	1,270	413	416		
減価償却費			1,453	467	161	169		
【事務分担量】（%）	30	50	50	15	5	5		
合計（+ +）	10,445	9,730	9,480	6,184	1,971	3,927	3,607	
特定財源								
国	0	0	0	0	0	0	0	
都	0	0	0	0	0	0	0	
その他	0	0	0	0	0	0	0	
一般財源	10,445	9,730	9,480	6,184	1,971	3,927	3,607	
実績の推移								
	事項名	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	彫刻の清掃メンテナンス（体）	17	47	43	44	62	51	53
	彫刻の修繕数（体）	2	3	3	4	2	1	1
	区内の彫刻数（体）	58	63	69	74	77	80	82
	設置数	3	2	3	5	2	3	2

予算・決算の内訳								
平成24年度（決算）			平成25年度（決算）			平成26年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
清掃委託	彫刻清掃メンテナンス	1,097	備品購入費	彫刻購入	1,785	委託料	彫刻清掃・汐入タワー管理	2,476
物品修繕費	彫刻等破損修繕	300	委託料	彫刻・壁画清掃	745	工事請負費	彫刻移設	821
			工事請負費	彫刻設置	472	需用費	彫刻緊急修繕費	310
			需用費	消耗品	340			

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		23年度	24年度	25年度	26年度見込み	目標値(27年度)	
標	彫刻の修繕完了率(%)	-	-	-	100	100	修繕完了数(年度内)/修繕必要数

（問題点・課題分析）	身近な芸術作品として区民に親しんでもらえるよう、区内に設置している彫刻作品のPRを強化する。汐入タワーの管理においては安全性の確保を図るとともに、汐入タワーを活用した事業展開を図っていく必要がある。
	（実施 22 区 未実施 0 区 不明 0 区）
他区の実況	

問題点・課題の改善策	
平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
設置場所の確保と拡充を図るとともに、街づくりや地域コミュニティづくりのきっかけとなるような取り組みを検討・実施する。	作品のPRを図ることで、荒川区の魅力を発信できるような事業について検討する。
汐入タワーの安全確保のため、定期的点検を行い、施設の運用方法について必要な見直しを検討する。また、地元町会等の意見を踏まえ、都及び関係団体等と連携したワークショップを実施する。	26年度に実施する安全点検の結果を踏まえ、必要な改修、施設の運用方法の見直し等を行う。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
26年度	27年度	
推進	継続	藝大との連携も含め新たな視点での彫刻設置を推進する。

議会議決要旨	彫刻の設置について、区の財産としてどう活用するか。（14年決特） 彫刻のPR（彫刻マップ等の作成）について。（19年1定） 彫刻のPRについて。（25年予特）
--------	---

事務事業分析シート（平成26年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-01-07	戦略プラン	協働	業務	財務	人事
事務事業名	音楽のまちづくり推進事業		部課名	地域文化スポーツ部文化交流推進課	課長名	佐藤	
			担当者名	田上	内線	2521	
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（26年度）	01-06-01	音楽のまちづくり推進事業費					
事務事業の種類	新規事業（26年度 25年度）		建設事業		それ以外の継続事業		
開始年度	昭和	平成	61年度	根拠	東京荒川少年少女合唱隊補助金交付要綱		
終期設定	有	無	年度	法令等			
実施基準	法令基準内		都基準内	区独自基準	計画区分	計画	非計画
行政評価事業体系	分野	文化創造都市					
	政策	09	伝統文化の継承と都市間交流の推進				
	施策	09-01	芸術・文化の振興				
目的	音楽を中心とする地域文化の振興を図り、区の芸術文化の向上に寄与することを目的とする。区に本拠地を置く東京荒川少年少女合唱隊（以下「合唱隊」）による合唱活動を通じての荒川区のイメージアップと区民の文化的水準の向上、青少年の健全育成に対する貢献は大きい。そのため、区が合唱隊の活動を支援するために補助金を交付することで、荒川区の文化振興を図る。						
対象者等	東京荒川少年少女合唱隊 代表：大村 光彦 指揮者：米谷 毅彦 団員数：35名（平成26年4月現在）						
内容	合唱隊への補助金の支出 合唱隊の活動に要する経費で、合唱隊が計画及び予算を決定する事業について、区長が認めたものを補助対象事業とする。 参考 合唱隊の活動状況 (1)他部署等との連携事業 荒川区芸術文化振興財団：定期演奏会の開催（共催事業）。40周年記念コンサートへの補助。 広報課：平成17年度に、創立40周年記念のため記録ビデオ「こころで唄いあげた日々 東京荒川少年少女合唱隊40周年、そして未来へ」を作成。 (2)その他の活動 チェルノブイリ25周年救援キャンペーンチャリティーコンサート、ウィーン演奏会 はっとファミリー体験発表会 等						
経過	合唱隊は、昭和40年に創立され、区内外で幅広く活動している。 区事業における合唱隊による演奏 区内での公演 平成15年度～18年度：区役所玄関ロビーにて年2回ミニコンサートを開催 平成22年度～：クリスマスツリー点灯式（ハッピートイズプロジェクトJR日暮里駅コンコース） このほか、川の手荒川まつりでの演奏、済州市友好交流記念歓迎レセプションで合唱を披露 あらかわキャラバン事業 平成23年度：釜石市にてコンサート開催 平成24年度：秩父市にてコンサート開催 平成25年度：北杜市にてジュニアコーラスの祭典に参加						
必要性	荒川区のイメージアップ、青少年の健全育成や音楽を中心とした地域の芸術文化活動の広がりをもたらすため、全国的に知名度の高い合唱隊の活動を今後も支援していく必要性がある。						
実施方法	（1直営）（直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員） 補助金の支出については、補助要綱に基づき、事業内容を審査の上、補助金額を決定している。						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
予算額	1,852	1,852	1,915	1,852	1,852	1,852	1,852	
決算額（26年度は見込み）	1,852	1,852	1,852	1,852	1,852	1,852	1,852	
人件費等	1,609	1,222	1,308	2,117	165	832		
減価償却費			436	778	65	338		
【事務分担量】（%）	19	15	15	25	2	10		
合計（+ +）	3,461	3,074	3,596	4,747	2,082	3,022	1,852	
特定財源								
国	0	0	0	0	0	0	0	
都	0	0	0	0	0	0	0	
その他	0	0	0	0	0	0	0	
一般財源	3,461	3,074	3,596	4,747	2,082	3,022	1,852	
実績の推移	事項名							
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
隊員数	34	39	37	42	34	35	30	
定期演奏会来場者数	757	843	765	790	756	800	800	
演奏回数	13	17	18	23	17	17	10	

予算・決算の内訳								
平成24年度（決算）			平成25年度（決算）			平成26年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
負担金補助及び交付金	合唱隊に対する補助金	1,852	負担金補助等	合唱隊に対する補助金	1,852	負担金補助等	合唱隊に対する補助金	1,852

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		23年度	24年度	25年度	26年度 見込み	目標値 (27年度)	
標	定期演奏会来場者数	71%	59%	67%	70%	75%	会場の定員の9割を100とした場合の割合

（問題点・課題分析）	<p>区の地域文化・芸術文化の向上を進めていくためには、他の音楽団体への支援も検討する必要がある。区による直接的な支援とあわせて、区内企業・団体など、地域と連携した事業展開についても検討を行う必要がある。</p> <p>区の行事への参加など、活動の機会・場所の提供を行うとともに、団体の活動紹介など広報等における支援を行っていく必要がある。</p>
他区の実況	（実施 5 区 未実施 0 区 不明 17 区）

問題点・課題の改善策		
	平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
	補助基準など、補助のしくみづくりについて検討する。	各団体の状況を把握した上で、補助基準など、補助条件等のしくみづくりについて検討する。
	関係団体等からの意見を踏まえ、具体的な事業内容・しくみづくりについて検討する。	関係団体等からの意見を踏まえ、具体的な事業内容について検討する。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
26年度	27年度	
継続	継続	東京荒川少年少女合唱隊に加え、他団体への支援も視野に入れ積極的に推進する。

議（要旨）	況（質問状）
-------	--------

予算・決算の内訳								
平成24年度（決算）			平成25年度（決算）			平成26年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
食料費	出演者賄い	55	委託料	広告・イベント委託	3,782	委託料	広告・イベント委託	4,240
需用費	ポスター・チラシ印刷	149	負担金補助等	実行委員会補助金	928	負担金補助等	実行委員会補助金	1,000
委託料	広告・イベント委託	3,595	需用費	出演者賄い	48	需用費	出演者賄い	62
補助金	実行委員会補助金	1,000						

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		23年度	24年度	25年度	26年度 見込み	目標値 (27年度)	
標	区負担の日暮里駅前ひろばの活用数	2	2	2	2	2	イベントの開催数
	自主的な駅前ひろばの活用数	2	2	1	2	3	イベントの開催数

（問題点・課題分析）	荒川区と各自治体双方にとってメリットのあるイベントを増やしていく必要がある。 イベント時の騒音について、周辺住民に配慮していく必要がある。
	（実施 0 区 未実施 0 区 不明 22 区）
他区の実況	

問題点・課題の改善策	
平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
各自治体からの意見や事業効果を検証するとともに、各自治体が主体となって実施するイベントへの支援を強化する。	26年度の検証結果を事業に反映する。
音量測定器を使用し、周辺住民へ配慮を行い、住民と交流都市が相互に利益を享受できるようなイベント内容を検討する。	26年度のイベントでの検証結果を事業に反映する。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
26年度	27年度	
推進	重点的に推進	都市間交流の推進、芸術文化の振興により、あわせて地域の活性化を図る。

議（要旨）	・事業内容の充実について（24年6月観光文化）
-------	-------------------------

事務事業分析シート（平成26年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-01-10	戦略プラン	協働	業務	財務	人事
事務事業名	東京藝術大学との連携事業		部課名	地域文化スポーツ部文化交流推進課	課長名	佐藤	
			担当者名	齊藤	内線	2522	
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（26年度）	01-09-01	東京芸術大学との連携事業					
事務事業の種類	新規事業（26年度 25年度）			建設事業	それ以外の継続事業		
開始年度	昭和	平成	21年度	根拠			
終期設定	有	無	年度	法令等			
実施基準	法令基準内		都基準内	区独自基準	計画区分	計画	非計画
行政評価事業体系	分野	文化創造都市					
	政策	09	伝統文化の継承と都市間交流の推進				
	施策	09-01	芸術・文化の振興				
目的	荒川区の隣接地に所在し、我が国の芸術文化の発展に大きな役割を果たしている国立大学法人東京藝術大学と、芸術・文化振興に係る事業について、相互の人材及び物的資源を最大限に生かした緊密な連携のもとに協力して事業を実施し、区における芸術文化の振興に努める。 狭い意味での芸術文化振興にとどまることなく、幅広く区行政全体にわたって連携を広げる。						
対象者等	東京藝術大学関係者等						
内容	(1) 東京藝術大学卒業生グループ「アプリユス」(以下「A+」という)と協力し、次代の芸術文化活動の担い手となる子どもを育てるためのワークショップや講座、公開制作など芸術教育事業の実施、区民の芸術文化活動の振興のため展覧会や制作講座などの企画実施を行い、芸術文化を介した交流の機会を提供する。 (2) 19年度から、東京藝術大学卒業・修了予定者が制作する彫刻作品を対象に荒川区長賞を授与し、受賞作品を区内に設置している。(22年度より「緑と彫刻の街づくり事業」から本事業に組替) (3) 22年度・24年度・25年度にA+に委託して地域と協力し壁画制作を実施。						
経過	平成19年度：東京藝術大学校舎の耐震工実施に伴い、リサイクルセンターの使用を許可（7月～20年1月）、A+へ使用許可開始（3月～21年3月） 教授、助手、大学院生らによる区立小学校児童を対象とした彫刻教室開催（12月） 平成20年度：A+企画展開催（7月）、ワークショップ開催（2回）、「国立大学法人東京藝術大学・荒川区 芸術・文化振興のための連携に係る合意書」締結（12月） 平成21年度：水道局旧工業用水道事務所の一部をA+が活動拠点として使用（4月～24年8月） ワorkshop開催（8月・1月・3月） 平成22年度：常磐線第2三ノ輪ガード壁画制作（9～12月）、ワークショップ開催（4講座） 平成23年度：ワークショップ開催（6講座） 平成24年度：東日暮里第1・第2辻元ガード間壁画制作（6月～10月）、ワークショップ開催（6講座） 平成25年度：常磐線第3三河島ガード下壁画制作（10～1月）、ワークショップ開催（10講座）						
必要性	区民が身近なところで、質の高い芸術作品や芸術家に触れる機会を創出することは、区民の自主的な文化活動の促進につながるため、必要性が高い。						
実施方法	(2一部委託) (直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員) ワークショップをA+に委託して実施している。						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移	(単位：千円)							
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
予算額		20,713	12,646	9,035	9,602	8,492	7,149	
決算額（26年度は見込み）		5,084	11,525	8,222	8,569	8,226	7,149	
人件費等		3,420	5,232	4,065	5,370	4,574		
減価償却費			1,743	1,493	2,098	1,859		
【事務分担量】（%）		42	60	48	65	55		
合計（+ +）	0	8,504	18,500	13,780	16,037	14,659	7,149	
特定財源								
国		0	0	0	0	0	0	
都		0	0	0	0	0	0	
その他		152	291	385	306	0	0	
一般財源	0	8,352	18,209	13,395	15,731	14,659	7,149	
実績の推移	事項名	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	実施事業数		4	5	6	6	10	8
	東京藝術大学卒業修了制作数	2	2	2	2	2	2	2

予算・決算の内訳								
平成24年度（決算）			平成25年度（決算）			平成26年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
報償費	奨学金、ワークショップ講師等謝礼	2,272	委託料	ワークショップ等事業実施委託	4,063	委託料	ワークショップ等事業実施委託	3,053
需用費	一般需用費	4	報償費	奨学金、ワークショップ講師等謝礼	2,374	報償費	奨学金、ワークショップ講師等謝礼	2,514
役務費	筆耕料、運搬費	6	工事請負費	卒業作品設置工事	1,764	工事請負費	卒業作品設置工事	1,463
委託料	ワークショップ等事業実施委託	4,239	需用費	消耗品購入	19	需用費	消耗品購入	112
使用料及び賃借料	賃借料	1,595	役務費	賞状筆耕	6	役務費	賞状筆耕	7
備品購入費	展示ケース購入費	231						
負担金補助及び交付金	創作活動拠点（光熱水費）	222						

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		23年度	24年度	25年度	26年度 見込み	目標値 (27年度)	
標	実施事業数	6	7	11	8	6	講座・教室等の開催予定数
	事業への参加人数	365	527	587	550	600	事業への参加者数
	事業実施のべ回数	17	28	32	37	40	

（問題点・課題分析）	これまでアプリユスの協力で事業を実施してきたが、さらに芸術文化活動を拡充していく必要がある。藝大区長賞作品の設置場所の確保が困難である。
	（実施 5 区 未実施 17 区 不明 0 区） ・壁画の実施区の数
他区の実況	

問題点・課題の改善策	
平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
藝大区長賞の受賞者など、藝大卒業生の団体等との連携を図った事業を検討する。	26年度の検討結果を踏まえ、事業を企画する。
設置場所の確保について、庁内において検討・調整を行う。	設置場所の確保について、庁内において検討・調整を行う。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
26年度	27年度	
推進	重点的に推進	藝大との連携により、芸術家の活動を支援するとともに、区民に身近な場所で質の高い芸術作品・芸術家と接する機会を提供していく。

議（要旨）	
況（質問状）	

事務事業分析シート（平成26年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-01-11	戦略プラン	協働	業務	財務	人事
事務事業名	公益財団法人荒川区芸術文化振興財団補助		部課名	地域文化スポーツ部文化交流推進課	課長名		佐藤
			担当者名	田上	内線		2522
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（26年度）	01-01-01	財団職員人件費					
	01-02-01	財団運営費（財団運営費）					
事務事業の種類	新規事業（26年度 25年度）		建設事業		それ以外の継続事業		
開始年度	昭和	平成	63年度	根拠	地方自治法第232の2、公益財団法人荒川区芸術文化振興財団に対する助成等に関する条例		
終期設定	有	無	年度	法令等			
実施基準	法令基準内		都基準内	区独自基準	計画区分	計画	非計画
行政評価事業体系	分野	文化創造都市					
	政策	09	伝統文化の継承と都市間交流の推進				
	施策	09-01	芸術・文化の振興				
目的	公共性と収益性のある芸術文化のための公益法人を育成することにより、事業の充実や新たな展開をはかり区民サービスを充実させる。あわせて、将来的に区財政の負担軽減を図る。						
対象者等	公益財団法人荒川区芸術文化振興財団						
内容	<p>本事業は芸術文化振興財団助成事業のうち、職員人件費及び財団運営に必要な運営費、理事会評議員会に関する経費、財務管理システム経費を補助するものである。</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成26年度(4月1日現在) 常勤職員：理事長1、事務局長1（固有）、次長1（派遣）管理係3（派遣）、文化事業係3（派遣） ＜派遣職員7、固有職員2、非常勤職員7＞ 運営費：光熱水費、消耗品費、健康診断費、通信運搬費、複写機等賃借料等 理事会評議員会経費：理事会（13人）、評議員会（19人）開催に係る経費 財務管理システム経費：データ回線使用料、システム機器リース経費等 						
経過	<p>平成18年度：町屋文化センター(所管：社会教育課)及び荒川遊園(所管：公園緑地課)の指定管理者となる。地域振興公社の所管課は区民生活部文化交流推進課となる。</p> <p>平成19年度：局長を派遣職員とする。</p> <p>平成20年度：荒川遊園事業部長を設置。</p> <p>平成21年度：理事長を常勤職員（固有）とし、管理係を1名増員。管理係に遊園安全担当係長を設置。</p> <p>平成22年度：事務局長を固有職員とする。管理係に人材派遣職員を1名採用。</p> <p>平成23年度：理事長と事務局長を兼務とし、管理係の人材派遣職員を1名減。荒川遊園の指定管理を終了（区直営となったため）</p> <p>平成24年度：事務局長を配置し、理事長の兼務を解消。公益財団法人へ移行（4月1日）</p> <p>平成26年度：次長職を設置。</p>						
必要性	芸術文化事業の実施団体として、その活動を支援していく必要がある。また、荒川区芸術文化振興財団の効率的な運営のため職員体制の確保は不可欠である。						
実施方法	(1直営) (直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員) 補助金の交付						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	予算額		95,275	116,987	71,606	118,059	13,786	49,257
決算額（26年度は見込み）		94,947	116,804	71,606	80,085	12,007	47,807	49,728
人件費等		170	162	174	423	826	416	
減価償却費				58	156	323	169	
【事務分担量】（%）		2	2	2	5	10	5	
合計（+ +）		95,117	116,966	71,838	80,664	13,156	48,392	49,728
特定財源の推移	国	0	0	0	0	0	0	0
	都	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	95,117	116,966	71,838	80,664	13,156	48,392	49,728
実績の推移	事項名	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	派遣職員数	7	9	8	6	6	6	7
	固有職員数	1	2	3	1	2	2	2
	非常勤職員数	5	5	13	4	7	7	7
	運営費削減率（17年度を基準）(%)	24	22	26	1	12	14	14

予算・決算の内訳								
平成24年度（決算）			平成25年度（決算）			平成26年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
補助金	公社職員人件費	5,835	負担金補助等	財団職員人件費	40,922	負担金補助等	財団職員人件費	41,939
補助金	公社運営費	6,172	負担金補助等	財団運営費	6,885	負担金補助等	財団運営費	7,789

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		23年度	24年度	25年度	26年度 見込み	目標値 (27年度)	
標	運営費削減率（％）	1	12	12	14	14	17年度(9,043千円)を基準とする

（問題点・課題分析）	公益財団法人に移行し3年目を迎え、区と緊密に連携し、円滑な事業運営と柔軟性を発揮した事業展開が求められる。
他区の実況	（実施 12 区 未実施 0 区 不明 10 区）

問題点・課題の改善策	
平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
友の会制度の見直しの効果など、公益財団法人移行後の検証をし、今後の運営に反映させていく。	公益財団法人としてのメリットを活かせるような効果的運営を行う。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
26年度	27年度	
推進	推進	芸術文化振興の担い手としてのACCへの補助が必要である。ACCの効率的な運営のため、職員体制確保は不可欠である。

議（要旨）	
-------	--

事務事業分析シート（平成26年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-01-12	戦略プラン	協働	業務	財務	人事
事務事業名	ほっとタウン発行（芸術文化振興財団費）	部課名		地域文化スポーツ部文化交流推進課		課長名	佐藤
		担当者名		田上		内線	2522
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（26年度）		01-02-02	ほっとタウン発行（財団運営費）				
事務事業の種類	新規事業（26年度 25年度）			建設事業	それ以外の継続事業		
開始年度	昭和	平成	63年度	根拠	地方自治法第232の2、公益財団法人荒川区芸術文化振興財団に対する助成等に関する条例		
終期設定	有 無		年度	法令等			
実施基準	法令基準内 都基準内 区独自基準			計画区分	計画	非計画	
行政評価事業体系	分野	文化創造都市					
	政策	09	伝統文化の継承と都市間交流の推進				
	施策	09-01	芸術・文化の振興				
目的	区内で行われる芸術文化活動の情報や区内で活躍する個人や団体の活動などを紹介し、区の広報誌では伝えきれない地域の文化情報を区民へ提供する。						
対象者等	公益財団法人荒川区芸術文化振興財団（H24.4.1公益財団法人に移行し名称変更）						
内容	<p>芸術文化振興財団助成事業のうち、情報提供事業である「ほっとタウン」の発行にかかわるものである。</p> <ul style="list-style-type: none"> 発行部数 76,500部 毎月1回新聞折込で区内全域に配布する。（朝日、読売、毎日、日経、産経、東京新聞 76,500部） 荒川区内 駅スタンド、荒川区施設、一部コンビニエンスストアにて配布。 8ページ（平成18年度以前は年間で4ページが10回、8ページが2回・平成19～22年度 6ページ） オールカラー（平成18年度以前は中面モノクロ） 平成26年度広告掲載取扱要綱を一部改正し、広告区分を変更 <p>広告料 大広告2・3・4・5・6・7面 A 35,000円、B 70,000円、C 140,000円、D 35,000円、E 15,000円 8面 A 40,000円、B 80,000円、C 160,000円、D 掲載不可、E 掲載不可 ミニ広告 1行（14文字） 600円</p>						
経過	<p>制作発行はS63年度開始より㈱東京読売サービスに委託。H15年度から見積競争により(有)新聞制作センターに変更した。H19年度からは6ページ、オールカラーにしエイト印刷㈱に委託している。</p> <p>《事業費推移》</p> <p>平成20年度 20,953,800円 平成21年度 19,037,340円 平成22年度 19,037,340円 平成23年度 16,997,400円 平成24年度 17,016,300円 平成25年度 17,292,504円</p>						
必要性	芸術文化事業の情報提供に不可欠な情報誌である。						
実施方法	(1直営) (直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員) 補助金の交付						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移	(単位：千円)							
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
予算額	8,198	8,198	8,198	9,350	9,350	8,813	9,350	
決算額（26年度は見込み）	8,198	8,198	8,198	8,542	9,300	8,813	9,350	
人件費等	85	81	87	423	826	416		
減価償却費			29	156	323	169		
【事務分担量】（％）	1	1	1	5	10	5		
合計（ + + ）	8,283	8,279	8,314	9,121	10,449	9,398	9,350	
特定財源								
国	0	0	0	0	0	0	0	
都	0	0	0	0	0	0	0	
その他	0	0	0	0	0	0	0	
一般財源	8,283	8,279	8,314	9,121	10,449	9,398	9,350	
実績の推移	事項名							
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
大広告件数	107	117	105	120	120	98	95	
ミニ広告件数	160	117	163	127	94	70	93	

予算・決算の内訳								
平成24年度（決算）			平成25年度（決算）			平成26年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
補助金	ほっとタウン発行	9,300	負担金補助等	ほっとタウン発行	8,813	負担金補助等	ほっとタウン発行	9,350

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		23年度	24年度	25年度	26年度 見込み	目標値 (27年度)	
標	芸術文化・地域振興事業来場者数	41,557	52,108	52,697	53,000	54,000	

問題点・課題 （指標分析）	広告収入の安定的な確保及び経費の効率的執行、さらに魅力的な紙面作成への努力が必要となる。
	（実施 12 区 未実施 0 区 不明 10 区）
他区の実況	

問題点・課題の改善策	
平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
魅力あふれる紙面づくりに努めるとともに、広報のあり方についての検討を行い、広告収入の安定的確保につなげ、発行事務のさらなる効率化を図る。	26年度の取り組みと効果を検証し、引き続き、広報のあり方、広告収入の安定的確保に努めていく。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
26年度	27年度	
推進	推進	区内の芸術文化振興のための情報提供に不可欠な情報誌発行事業である。

議会 （要旨） 状況	「ほっとタウン」を中心とした、効果的で積極的なPRについて。（25年決特）
------------------	---------------------------------------

事務事業分析シート（平成26年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-01-13	戦略プラン	協働	業務	財務	人事
事務事業名	芸術文化・地域振興事業（芸術文化振興財団費）	部課名	地域文化スポーツ部文化交流推進課	課長名	佐藤		
		担当者名	田上	内線	2522		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（26年度）		01-02-03	芸術文化・地域振興事業費				
事務事業の種類	新規事業（26年度 25年度）		建設事業		それ以外の継続事業		
開始年度	昭和	平成	63年度	根拠			
終期設定	有	無	年度	法令等			
実施基準	法令基準内		都基準内	区独自基準	計画区分	計画	非計画
行政評価事業体系	分野	文化創造都市					
	政策	09	伝統文化の継承と都市間交流の推進				
	施策	09-01	芸術・文化の振興				
目的	サンパール荒川、日暮里サニーホール、ムーブ町屋などの区民ホールで、芸術文化事業を公演することにより、荒川区における芸術文化の振興と区民文化の活性化を図る。						
対象者等	公益財団法人荒川区芸術文化振興財団（H24.4.1公益財団法人に移行し名称変更）						
内容	芸術文化振興財団事業のうち、芸術文化及び地域の振興にかかわる事業に対する補助である。 [定期事業] 荒川区民交響楽団・第九演奏会、小泉定弘写真展、都電写真コンテスト 等 [その他事業実績] ・23年度 クラシックのさんばみち、お笑い健康講座、JAZZライブinあらかわ、松竹大歌舞伎、青山広志withブルーアイランド楽団、水上バスクルーズ 等 ・24年度 教育施設出前公演、夏休み！子ども文化体験隊、サンパール荒川1-1-1ギャラリー事業、水上バスクルーズ、JAZZライブinARAKAWA、狂言「万作の会」 等 ・25年度 あらかわ舞台芸術創造プロジェクト「能×OPERA」、が～まるちよば「東京JACK」、春風亭小朝・三遊亭円楽二人会 等						
経過	平成16年度：芸術文化・地域振興事業の補助金を交付。 平成21年度：芸術文化自主事業施設使用料補助金を交付（施設使用の際の減免で指定管理者収入に影響が出ないように）し、芸術文化振興財団から各施設に直接使用料を支払う。 平成24年度：公益財団法人に移行し名称変更（H24.4.1）。 区民課にて施設使用料のみ負担（附帯設備はACCの負担）。 ARAKAWA1-1-1 ギャラリー開設（H24.6.1） 平成25年度：教育との連携事業を開始。 （汐入小学校にて授業内で能楽体験・全中学生を対象に文楽の鑑賞会）						
必要性	荒川区芸術文化振興財団の最も重要な使命である芸術文化事業実施のための補助で、優先的な対応が必要である。						
実施方法	（1直営）（直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員） 補助金の交付						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
予算額	19,347	33,250	33,250	46,196	45,637	45,184	45,184	
決算額（26年度は見込み）	17,116	31,845	30,220	45,196	27,995	29,501	45,184	
人件費等	85	81	87	423	826	416		
減価償却費			29	156	323	169		
【事務分担当】（%）	1	1	1	5	10	5		
合計（+ +）	17,201	31,926	30,336	45,775	29,144	30,086	45,184	
特定財源								
国	0	0	0	1,000	0	0	0	
都	0	0	0	0	0	0	0	
その他	0	0	0	0	0	0	0	
一般財源	17,201	31,926	30,336	44,775	29,144	30,086	45,184	
実績の推移	事項名							
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
チケット収入率（%）	60	46	42	42	46	33	50	
参加・体験型事業件数	10	10	9	11	23	22	17	
芸術文化・地域振興事業来場者数	38,341	31,333	32,381	41,557	52,108	52,697	53000	

予算・決算の内訳								
平成24年度（決算）			平成25年度（決算）			平成26年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
補助金	芸文・地振事業	23,254	負担金補助等	芸術文化・地域振興事業費	29,501	負担金補助等	芸術文化・地域振興事業費	45,184
	芸文事業施設使用料	4,741						

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		23年度	24年度	25年度	26年度 見込み	目標値 (27年度)	
標	チケット収入率（％）	42	42	46	50	54	自主事業収入額÷支出額(24年度以降支出額に会場費含まず)

（問題点・課題分析）	<p>平成24年度から公益財団法人へと移行し、荒川区の芸術文化振興の中心的担い手として事業の充実を図るほか、区民や団体の活動支援、区の将来を担う子どもたちを中心とした人材育成に貢献する事業を推進する必要がある。</p> <p>平成24年5月にサンパール荒川の2階に設置したACC分室及びギャラリーを区の芸術文化活動活性化の拠点として定着させることが必要である。</p> <p>平成27年度に予定されているサンパール荒川の改修工事を踏まえ、事業の実施方法等について検討を行う必要がある。</p>
他区の実況	（実施 12 区 未実施 0 区 不明 10 区）

問題点・課題の改善策	
平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
新たな荒川区芸術文化振興プランを踏まえ事業の充実を図る。	次世代を育成する取り組みを推進するとともに、26年度の検討結果を踏まえ、実施する。
引き続き1-1-1ギャラリーの活用方法について検討を行い、事業を充実する。	26年度の取り組み・検討を踏まえ、継続して1-1-1ギャラリーの活用方法について検討を行い、事業を充実する。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
26年度	27年度	
重点的に推進	重点的に推進	ACCの設立趣旨である、「荒川区における芸術文化の振興を図り、地域社会の発展と区民生活の向上に資する」ための事業実施に必要な補助である。

議会議案（要旨）	<p>「アーティストバンク」の拡充について(24年1定)</p> <p>区民ミュージカル事業の推進について(25予特)</p> <p>事業内容の把握と、価値のある事業について。(25年9月決特)</p>
----------	---

事務事業分析シート（平成26年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-04-01	戦略プラン	協働	業務	財務	人事
事務事業名	複合施設開設準備費		部課名	地域文化スポーツ部複合施設準備室	課長名	堀	
			担当者名	村木	内線	2256	
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（26年度）	01-01-01	複合施設建設費					
	01-01-02	複合施設開設準備費					
事務事業の種類	新規事業	（26年度 25年度）	建設事業	それ以外の継続事業			
開始年度	昭和 平成	18 年度	根拠	無し			
終期設定	有 無	28 年度	法令等				
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画	非計画	
行政評価事業体系	分野	文化創造都市					
	政策	09	伝統文化の継承と都市間交流の推進				
	施策	09-01	芸術・文化の振興				
目的	以下の三つの機能を融合させた複合施設を、荒川二丁目用地に整備する。 ・大規模な蔵書をもとに、区民の課題解決等と全ての世代の読書活動を支援する図書館機能 ・吉村昭氏に関する資料の収集、研究及び保管を行い、同氏の業績を記念する文学館機能 ・子どもに豊かな遊びや幅広い体験・交流の場を提供する子ども施設機能						
対象者等	区民等						
内容	<p>施設全体</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設の建設工事、周辺整備との連携 三つの機能を融合させ、これまでの各機能の枠を越えた事業を施設全体として運営する仕組づくり 複合施設開設に向けた機運の醸成 <p>図書館機能</p> <ul style="list-style-type: none"> 融合施設にふさわしい資料の選定及び調達 自動認識技術を活用した蔵書管理方式の導入等サービス向上に向けた検討 <p>文学館機能</p> <ul style="list-style-type: none"> 吉村昭氏に関する資料の収集及び研究 展示計画の策定 <p>子ども施設</p> <ul style="list-style-type: none"> 遊具や体験教材の調達 						
経過	<p>平成18年 4月 これからの図書館調査懇談会報告</p> <p>平成18年11月 文学館のあり方に関する懇談会実施の設置（～19年3月）</p> <p>平成19年 6月 （仮称）吉村昭記念文学館基本構想委員会の設置（～20年3月）</p> <p>平成20年 7月 （仮称）吉村昭記念文学館推進委員会の設置（～20年3月）</p> <p>平成21年10月 二丁目用地取得</p> <p>平成21年11月 複合施設の設置及び運営に関する懇談会の設置</p> <p>平成23年 7月 （仮称）荒川二丁目複合施設基本計画策定</p> <p>平成24年 3月 荒川地区都市再生整備計画策定</p> <p>平成24年10月 （仮称）荒川二丁目複合施設基本設計及び展示基本設計完了</p> <p>平成26年 3月 （仮称）荒川二丁目複合施設実施設計完了</p>						
必要性	複合施設の整備により、世代や地域、目的が違う人々が集い、交流と経験の共有を通して、知の集積や発信、新たな知的文化活動の誘発や企画が生まれ、荒川地区はもとより、区内全体の知とコミュニティの醸成を図る。						
実施方法	（1直営）（直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員） 施設運営等の検討に当たっては、学芸員の資格等を有する専門の非常勤職員を採用して実施するとともに、専門家や関係団体、区民等から幅広く御意見を伺いながら進める。						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
予算額		8,740	18,857	100,349	226,947	321,106	2,506,894	
決算額（26年度は見込み）		6,597	8,386	24,284	223,203	179,656	2,506,894	
人件費等		5,701	10,028	12,280	14,044	7,485		
減価償却費			3,341	4,510	5,486	3,042		
【事務分担量】（%）		70	115	145	170	90		
合計（+ +）	0	12,298	21,755	41,074	242,733	190,183	2,506,894	
特定財源					27,916	33,990	112,100	
国								
都								
その他								
一般財源	0	12,298	21,755	41,074	214,817	156,193	2,394,794	
実績の推移	事項名	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	関連事業の参加人数（人）							150

予算・決算の内訳								
平成24年度（決算）			平成25年度（決算）			平成26年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
報酬	非常勤職員報酬	0	委託料	実施設計業務委託等	105,184	工事請負費	建築工事費等	2,464,438
共済費	社会保険料	0	財産購入費	用地取得費	72,489	委託料	工事監理等	33,337
報償費	アドバイザー謝礼	211	需用費	消耗品費	1,469	報酬	非常勤職員報酬	2,346
旅費	近接地外旅費	139	旅費	近接地外旅費	316	需用費	消耗品費、印刷製本費	2,269
需用費			報償費	アドバイザー謝礼	195	役務費	商標登録経費	1,269
委託料	基本設計・実施設計	98,725	使用料及び賃借料	会場使用料	3	旅費	近接地外旅費	1,011
備品購入費						負担金補助及び交付金	電柱移設負担金	900

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		23年度	24年度	25年度	26年度見込み	目標値(27年度)	
標	関連事業の参加人数（人）				150	300	複合施設の開設に向けた周知イベントの参加者数
	整備の進捗率（％）					40	

（問題点・課題分析）	<ul style="list-style-type: none"> 複合施設全体の認知度の向上 複合施設のサービスを担う人材の育成 平成28年度の開設に向け、他部署・他機関との調整を行いながらのスケジュール管理
	他区の実況 （実施 0 区 未実施 22 区 不明 0 区）

問題点・課題の改善策	
平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
複合施設の一機能である図書館に関して、資料の調達や自動認識技術を活用した新たな蔵書管理方式の導入に向けて、その準備に取り組む。	資料の調達を行うとともに、自動認識技術を活用した新たな蔵書管理方式を、実際の図書館の事務に適合させるよう、詳細な調整を行う。
複合施設の開設に向けて、研修等を通じて、職員の意識改革とスキルアップを図るとともに、より効果的な運営体制の在り方について、区民参加等の検討を行う。	開館後の講座やイベントの実施に向けて、詳細な事業内容の検討を進めるとともに、ボランティアの採用に向けた準備を行う。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
26年度	27年度	
重点的に推進	重点的に推進	実施設計の完了を踏まえ、施設の整備を進め、三つの機能が融合した施設の運営体制の構築とともに、施設の開設に向けた機運の醸成を図る必要がある。

（要質問状）	平成21年二定：荒川二丁目用地に建設予定の複合施設について 平成22年三定：複合施設へのアクセスの確保及び周辺の景観形成 平成23年四定：荒川二丁目複合施設の早期実現について 平成24年二定：「融合施設」設置に向けた財政的な負担について 平成26年一定：複合施設の運営について
--------	--

事務事業分析シート（平成26年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-04-02	戦略プラン	協働	業務	財務	人事
事務事業名	(仮称)吉村昭記念文学館推進事業		部課名	地域文化スポーツ部複合施設準備室	課長名	堀	
			担当者名	村木	内線	2256	
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード(26年度)	--						
事務事業の種類	新規事業 (26年度 25年度)			建設事業		それ以外の継続事業	
開始年度	昭和 平成		18年度	根拠	無し		
終期設定	有 無		28年度	法令等			
実施基準	法令基準内 都基準内 区独自基準			計画区分	計画	非計画	
行政評価事業体系	分野	文化創造都市					
	政策	09	伝統文化の継承と都市間交流の推進				
	施策	09-01	芸術・文化の振興				
目的	郷土を代表する作家・吉村昭氏に関する資料の収集、研究等を行うとともに、同氏の作品等を基盤とした幅広い文化活動を展開することにより、区民の心を育み、区の文化振興に寄与する。						
対象者等	区民等						
内容	吉村昭氏に関する資料の収集、整理、保管及びその研究 展示活動や講演会を通じた、吉村昭氏と同氏の作品の普及啓発 ・ 日暮里図書館吉村昭コーナーミニ展示 ・ 荒川ふるさと文化館郷土学習室「吉村昭の部屋」ミニ展示 ・ 企画展や講演会の開催 文学館の開設に向けた機運の醸成のための友の会の設置や、広報誌の発行						
経過	平成4年5月 吉村昭氏区民栄誉賞受賞 区役所1階で作品展開催 日暮里図書館吉村昭コーナー設置 平成16年4月 区内の各図書館に吉村昭著作コーナーを設置 平成18年7月31日 吉村昭氏逝去 11月 文学館のあり方に関する懇談会設置(～19年3月) 平成19年1月 講演会 6月 文学館基本構想委員会設置(～20年3月) 7月 講演会、企画展 平成20年7月 (仮称)吉村昭記念文学館推進委員会設置 7月 追悼イベント 10月 企画展、講演会 平成21年6月 企画展、講演会 平成22年6月 企画展 7月 講演会 平成23年3月 朗読会、講演会 9月 パネル展 平成24年3月 朗読コンサート 12月 パネル展 平成25年3月 朗読コンサート 平成26年1月 パネル展、講演会						
必要性	吉村昭氏の業績を後世に伝えるとともに、吉村作品を通してさらに広範な文学の世界に触れる機会を広く区民に向けて提供することは、荒川区における文化を深めていくことに寄与する。						
実施方法	(1直営) (直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員) 文学館の開設準備に当たっては、学芸員の資格等を有する専門の非常勤職員を採用して実施するとともに、文学館推進委員会等を通じて、専門家の御意見も伺いながら進める。						

(単位：千円)

予算・決算額等の推移		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	予算額		19,860	20,694	21,679	11,974	9,531	11,222
決算額(26年度は見込み)		14,730	15,672	12,159	5,016	3,612	7,984	19,464
人件費等		21,822	23,623	25,813	14,950	14,736	15,333	
減価償却費				14,525	11,818	12,263	12,844	
【事務分担量】(%)		400	500	500	380	380	380	
合計(+ +)		36,552	39,295	52,497	31,784	30,611	36,161	19,464
特定財源	国							
	都							
その他								
一般財源		36,552	39,295	52,497	31,784	30,611	36,161	19,464
実績の推移	事項名	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	記念事業の参加人数(人)	700	90	89	87	85	78	150
	文学館友の会会員数(人)							300

予算・決算の内訳								
平成24年度（決算）			平成25年度（決算）			平成26年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
報償費	委員謝礼、講師謝礼	171	委託料	レプリカ製作業務委託等	4,953	報酬	非常勤職員報酬	8,543
特別旅費	調査旅費	418	需用費	消耗品購入、刊行物作成等	1,440	委託料	証言映像記録制作委託等	5,149
一般需用費	消耗品、ポスター印刷等	1,036	備品購入費	自筆原稿購入費等	662	需用費	消耗品、広報紙印刷等	1,864
役務費	所蔵資料保管業務等	270	旅費	近接地外旅費	417	共済費	社会保険料（非常勤）	1,171
委託料	寄託資料データ化委託等	1,646	役務費	所蔵資料保管業務等	286	備品購入費	自筆原稿購入費	972
使用料・賃借料	資料賃借料等	53	報償費	委員謝礼	144	旅費	近接地外旅費	639
備品購入費	自筆原稿購入費等	0	使用料及び賃借料	資料賃借料等	63	役務費	トランクルーム保管料	449

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		23年度	24年度	25年度	26年度 見込み	目標値 (27年度)	
標	記念事業の参加人数（人）	87	85	78	150	300	文学館の開設に向けた周知イベントの参加者数
	文学館友の会会員数（人）				300	450	吉村昭氏の功績や作品を広く周知するための指標

（問題点・課題分析）	<ul style="list-style-type: none"> 文学館の開設に向けて、区民に吉村昭及び吉村文学を周知する必要がある。 機運醸成のため、応援団的な組織が必要である。
	他区の実況 （実施 11 区 未実施 11 区 不明 0 区） 文学館設置区 中央区、新宿区、文京区、台東区、目黒区、大田区、世田谷区、渋谷区、杉並区、北区、練馬区

問題点・課題の改善策	
平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
複合施設の一機能である吉村昭記念文学館の開設に向けて、その情報を全国に発信していくとともに、吉村氏の功績を広く周知していくため、文学館友の会のような賛助組織を設ける。	文学館の認知度の向上と、区内の機運の醸成を図るため、友の会普及活動及び記念事業を実施する。
展示実施設計の完了を踏まえ、常設展示で実際にパネルや映像として使用されることを念頭に、他の自治体や関係者の協力を得ながら、幅広く関連の資料や証言等を収集し、その研究を行う。	文学館の常設展示の内容を詳細まで固めるとともに、文学館の開設にあわせて実施する予定の企画展示等の内容を検討する。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
26年度	27年度	
重点的に推進	重点的に推進	広く区民に対して、吉村昭という作家と、その作品の紹介を継続して行うことにより、文学館の開設に向けた区内の機運の醸成を図る。

（議事要旨）	H18一 定：吉村昭氏の記念文学館あるいは図書館併設の記念文庫をつくってはどうか H18三 定：記念館の設置を要望する H23四 定：文学館開館に向けた事前周知について H26予 特：文学館の応援団について
--------	--